

令和4年度 財政状況資料集

総括表 (市町村)

都道府県名	奈良県		市町村類型	中核市	指定団体等の指定状況		区分		令和4年度(千円)		令和3年度(千円)		区分		令和4年度(千円・%)		令和3年度(千円・%)		
					財政健全化等	×	歳入総額	156,226,595	158,144,190	実質収支比率	4.8	6.7							
市町村名	奈良市		地方交付税種地	1-6	財源超過	×	歳出総額	151,061,622	151,594,071	経常収支比率	96.9	91.1							
					首都	×	歳入歳出差引	5,164,973	6,550,119	(※1)	(101.0)	(100.0)							
					近畿	○	翌年度に繰越すべき財源	1,268,338	1,050,123	標準財政規模	81,083,056	82,315,330							
							実質収支	3,896,635	5,499,996	財政力指数	0.73	0.75							
人口	令和2年国調(人)	354,630	産業構造(※5)		中部	×	単年度収支	-1,603,361	3,209,200	公債費負担比率	18.4	19.0							
	平成27年国調(人)	360,310			過疎	×	積立金	93	67	健全化判断比率									
	増減率(%)	-1.6			山振	○	繰上償還金	530,724	0	実質赤字比率	-	-							
住民基本台帳人口(※7)	令05.01.01(人)	351,418	第1次	令和2年国調	1,986	平成27年国調	2,308	低開発	×	積立金取崩し額	4,000,000	0	連結実質赤字比率	-	-				
	うち日本人(人)	347,293							指数表選定	○	実質単年度収支	-5,072,544	3,209,267	実質公債費比率	9.5	9.9			
	令04.01.01(人)	353,158	第2次		1.3		1.5			基準財政収入額	45,608,099	44,044,190	資金不足比率(※4)						
	うち日本人(人)	349,433				25,566		27,796			基準財政需要額	64,492,699	62,065,318						
	増減率(%)	-0.5				17.3		18.6			標準税収入額等	58,614,692	56,625,022						
	うち日本人(%)	-0.6	第3次			120,304		119,229			経常経費充当一般財源等	80,552,650	78,381,237						
	面積(km ²)	276.94				81.4		79.8			歳入一般財源等	100,066,750	95,907,010						
人口密度(人/km ²)	1,281																		
世帯数(世帯)	155,305																		
職員の状況(※8)																			
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	189,229,838	199,817,164								
	市区町村長	1	10,480		一般職員	2,228	6,868,924	3,083	うち公的資金	90,794,914	94,329,468								
	副市区町村長	2	8,550		うち消防職員	399	1,202,187	3,013	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	122,298,123	130,323,644								
	教育長	1	7,330		うち技能労務職員	308	1,014,552	3,294	債務負担行為額(支出予定額)	13,909,937	11,685,905								
	議会議長	1	7,330		教育公務員	172	561,284	3,263	収益事業収入	-	-								
	議会副議長	1	6,440		臨時職員	30	81,090	2,703	土地開発基金現在高	-	-								
	議会議員	37	5,960		合計	2,430	7,511,298	3,091	積立金現在高	2,840,655	3,640,562								
						ラスパイレース指数		98.8		財政調整基金	1,702,884	2,233,918							
										減債基金	6,451,821	6,242,755							
										その他特定目的基金									
一般会計等の一覧																			
項番	会計名	事業会計の一覧			公営企業(法適)の一覧			公営企業(法非適)の一覧			関係する一部事務組合等一覧			地方公社・第三セクター等一覧					
(1) 一般会計		項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)					
(2) 住宅新築資金等貸付金特別会計		(5) 国民健康保険特別会計		(8) 水道事業会計		(11) 奈良県市町村総合事務組合		(15) 奈良市清美公社											
(3) 土地区画整理事業特別会計		(6) 介護保険特別会計		(9) 下水道事業会計		(12) 山辺環境衛生組合		(16) 奈良市市街地開発株式会社											
(4) 母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計		(7) 後期高齢者医療特別会計		(10) 病院事業会計		(13) 奈良県住宅新築資金等貸付金回収管理組合		(17) 奈良市生涯学習財団											
						(14) 奈良県後期高齢者医療広域連合		(18) 奈良市総合財団											

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補償債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)					地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	52,433,832	33.6	49,049,934	61.5	普通税	47,994,894	91.5	591,581	
地方譲与税	830,365	0.5	830,365	1.0	法定普通税	47,994,894	91.5	591,581	
利子割交付金	29,848	0.0	29,848	0.0	市町村民税	25,374,053	48.4	591,581	
配当割交付金	632,512	0.4	632,512	0.8	個人均等割	595,746	1.1	-	
株式等譲渡所得割交付金	442,469	0.3	442,469	0.6	所得割	21,787,384	41.6	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	905,405	1.7	-	
地方消費税交付金	7,914,973	5.1	7,914,973	9.9	法人税割	2,085,518	4.0	591,581	
ゴルフ場利用税交付金	273,503	0.2	273,503	0.3	固定資産税	20,081,488	38.3	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	20,030,245	38.2	-	
自動車取得税交付金	4,229	0.0	4,229	0.0	軽自動車税	714,619	1.4	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	1,824,734	3.5	-	
自動車税環境性能割交付金	115,184	0.1	115,184	0.1	鉱産税	-	-	-	
法人事業税交付金	524,877	0.3	524,877	0.7	特別土地保有税	-	-	-	
地方特例交付金等	318,742	0.2	318,742	0.4	法定外普通税	-	-	-	
個人住民税減収補填特例交付金	316,437	0.2	316,437	0.4	目的税	4,438,938	8.5	-	
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	2,305	0.0	2,305	0.0	法定目的税	4,438,938	8.5	-	
地方交付税	19,838,032	12.7	19,040,852	23.9	入湯税	32,425	0.1	-	
普通交付税	19,040,852	12.2	19,040,852	23.9	事業所税	1,022,615	2.0	-	
特別交付税	797,180	0.5	-	-	都市計画税	3,383,898	6.5	-	
震災復興特別交付税	-	-	-	-	水利地益税等	-	-	-	
(一般財源計)	83,358,566	53.4	79,177,488	99.3	法定外目的税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	38,576	0.0	38,576	0.0	旧法による税	-	-	-	
分担金・負担金	510,925	0.3	-	-	合計	52,433,832	100.0	591,581	
使用料	1,902,323	1.2	241,302	0.3					
手数料	690,870	0.4	589	0.0					
国庫支出金	40,716,666	26.1	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	3,015	0.0	3,015	0.0					
都道府県支出金	9,812,869	6.3	-	-					
財産収入	440,409	0.3	254,510	0.3					
寄附金	447,503	0.3	-	-					
繰入金	5,044,387	3.2	-	-					
繰越金	3,350,119	2.1	-	-					
諸収入	2,674,367	1.7	19,434	0.0					
地方債	7,236,000	4.6	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	3,427,400	2.2	-	-					
歳入合計	156,226,595	100.0	79,734,914	100.0					

区分	令和4年度	令和3年度
徴収率	99.4	97.6
現・計	99.4	97.8
(%)	99.3	97.4
年	99.3	97.3
	99.3	96.8

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	15,520,736	実質収支	55,179
下水道	1,353,713	再差引収支	-30,521
上水道	714,032	加入世帯数(世帯)	45,373
病院	547,938	被保険者数(人)	67,857
工業用水道	-	被保険者	100
国民健康保険	2,500,017	1人当り	100
その他	10,405,036	保険税(料)収入額	362
		国庫支出金	-
		保険給付費	-

歳出の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	643,496	0.4	-	643,278
総務費	16,095,509	10.7	219,396	14,374,507
民生費	70,503,004	46.7	514,317	30,177,675
衛生費	15,072,443	10.0	290,505	10,684,563
労働費	104,680	0.1	-	101,837
農林水産業費	604,828	0.4	184,481	393,223
商工費	2,062,158	1.4	64,970	1,396,032
土木費	9,855,474	6.5	5,263,205	5,391,145
消防費	4,222,086	2.8	331,223	3,900,663
教育費	13,355,430	8.8	2,414,294	9,383,877
災害復旧費	5,955	0.0	-	1,360
公債費	18,445,839	12.2	-	18,363,617
諸支出金	90,720	0.1	-	90,000
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	151,061,622	100.0	9,282,391	94,901,777

性質別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	90,099,431	59.6	52,379,082	51,188,795	61.6
人件費	24,988,933	16.5	22,920,329	22,526,679	27.1
うち職員給	16,464,612	10.9	15,525,020	-	-
扶助費	46,664,659	30.9	11,095,136	10,874,467	13.1
公債費	18,445,839	12.2	18,363,617	17,787,649	21.4
元利償還金	18,442,684	12.2	18,360,462	17,784,494	21.4
内訳					
うち元金	17,823,326	11.8	17,741,291	17,165,323	20.6
うち利子	619,358	0.4	619,171	619,171	0.7
一時借入金利子	3,155	0.0	3,155	3,155	0.0
その他の経費	51,673,845	34.2	40,252,293	29,363,855	35.3
物件費	23,574,161	15.6	16,782,613	13,557,686	16.3
維持補修費	1,628,467	1.1	1,264,234	1,264,140	1.5
補助費等	12,777,445	8.5	11,422,760	4,684,397	5.6
うち一部事務組合負担金	67,771	0.0	32,138	31,770	0.0
繰出金	12,905,053	8.5	10,308,730	9,850,613	11.8
積立金	496,897	0.3	466,937	-	-
投資・出資金・貸付金	291,822	0.2	7,019	7,019	0.0
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	9,288,346	6.1	2,270,402	-	-
うち人件費	432,426	0.3	391,426	-	-
普通建設事業費	9,282,391	6.1	2,269,042	-	-
うち補助	4,473,226	3.0	140,463	-	-
うち単独	4,422,334	2.9	2,122,672	-	-
災害復旧事業費	5,955	0.0	1,360	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	151,061,622	100.0	94,901,777	-	-

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和4年度 奈良県奈良市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	155,671	150,642	5,029	3,887	4,823	182,726	
2 住宅新築資金等貸付金特別会計	17	7	10	10	-	-	
3 土地区画整理事業特別会計	1,023	972	52	-	487	6,738	
4 母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計	88	14	75	-	-	124	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	351,418人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	347,293人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	276.94km ²	実質公債費比率	9.5%
歳入総額	156,226,595千円	将来負担比率	90.0%
歳出総額	151,061,622千円	市町村類型	H30 中核市 R01 中核市 R02 中核市
実質収支	3,896,635千円	(年度毎)	R03 中核市 R04 中核市
標準財政規模	81,083,056千円		
地方債現在高	189,229,838千円		

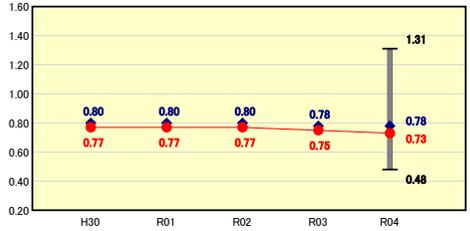


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

財政力

財政力指数 [0.73]

類似団体内順位 41/82 全国平均 0.49 奈良県平均 0.39

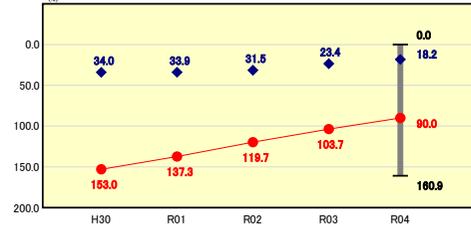


財政力指数の分析欄
 前年度に比べ、市税や地方交付税は増加したが、臨時財政対策債が大幅に減少したことにより、分母となる経常一般財源が減少した。その結果、令和4年度は類似団体平均との差が縮まった。
 人件費が類似団体平均を上回っていることから、今後も改善を進めるべく、職員数の適正化や事業の内容・手法の見直し等を推進し、財政の健全化に努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [90.0%]

類似団体内順位 54/82 全国平均 8.8 奈良県平均 34.5

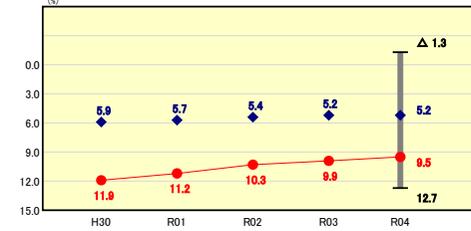


将来負担比率の分析欄
 将来負担比率については、90.0%となり、前年度比13.7ポイントの改善となった。主な要因としては、繰上償還を含む臨時財政対策債の元金償還等により、元金償還額が地方債新規発行額を上回ったことで地方債現在高が減少したこと、退職手当負担見込額が減少したこと、公営企業債等繰入見込額が減少したことが挙げられる。
 また、将来負担額から控除される充当可能基金や基準財政需要額算入見込額が増額となったため、分子となる負担額が減額したことも要因といえる。
 土地開発公社解散のための第三セクター等改革推進債の償還が今後も続くことで類似団体平均よりも依然として高いといえるが、今後も市債発行の抑制や基金残高を確保することで数値の改善に努め、財政の健全化を図る。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [9.5%]

類似団体内順位 55/82 全国平均 5.5 奈良県平均 8.1

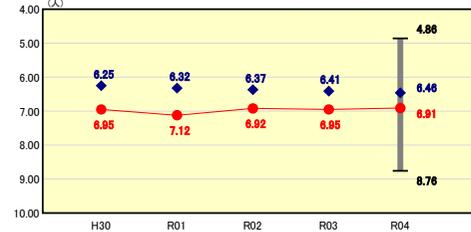


実質公債費比率の分析欄
 実質公債費比率については、単年度では9.5%と前年度比0.3ポイント改善し、3カ年平均についても9.5%と、前年度比0.4ポイント改善した。
 主な要因としては、猶予特例債の償還が終了したこと、地方債の元利償還金が減少し、分子が減少したことが挙げられる。
 土地開発公社解散のための第三セクター等改革推進債の影響も大きいことから、類似団体平均よりも依然として高いため、今後も市債発行の抑制により改善に努める。

定員管理の状況

人口1,000人当たり職員数 [6.91人]

類似団体内順位 42/82 全国平均 8.25 奈良県平均 8.07

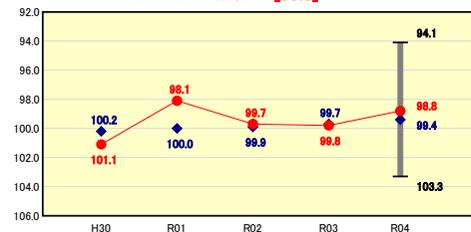


人口1,000人当たり職員数の分析欄
 本市においては、定員適正化計画に基づく取組により職員数の適正化を進めているところであるが、類似団体と比較すると依然として人口1,000人当たり職員数が多い傾向にある。これらは、保育所・認定こども園・幼稚園などの幼保施設、清掃業務などの直営比率の高さが要因と思われる。そのため、幼保施設や清掃業務等については民間委託・民間移管の拡大、その他部門についても効率的な組織運営による職員の適正配置を進め、更なる適正化に取り組んでいる。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレス指数 [98.8]

類似団体内順位 21/82 全国市平均 98.7 全国町村平均 98.3

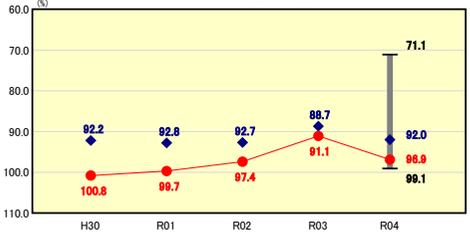


ラスパイレス指数の分析欄
 令和元年度については、給与カット(2%)の影響等により3.0ポイント減少し、98.1と低い指数となった。
 令和2年度においては給料カットの終了に伴い指数は増加したが、令和3年度と同様に100を下回る結果となった。
 令和4年度においては、制度改正等によりさらに低い指数となった。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [96.9%]

類似団体内順位 54/82 全国平均 92.2 奈良県平均 93.4

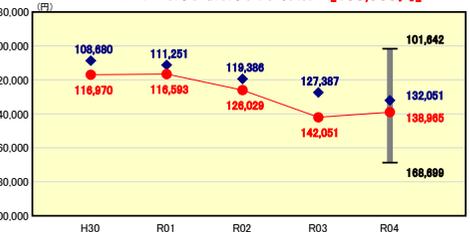


経常収支比率の分析欄
 前年度と比較し、普通交付税や市税等が増加したものの、臨時財政対策債が大きく減少したことにより分母が減少し、また物価や光熱費高騰の影響等により分子が増加したことで、全体として5.8ポイントの悪化となった。
 類似団体平均と比較しても依然として高い水準であるため、歳入においては市税等債権回収の強化、ふるさと納税など新たな歳入確保に努め、歳出においては、人事管理の適正化に取り組むことにより人件費の抑制に努め、市債発行の抑制による公債費の縮減等、義務的経費の縮減に引き続き取り組む。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [138,965円]

類似団体内順位 43/82 全国平均 160,081 奈良県平均 151,972



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 前年度と比較し、退職手当は増加したものの定員適正化計画推進に基づく正規職員の人数減による給料の減少等により人件費が減額となり、物件費もコロナ対応の飲食店への時短営業協力支援金経費やワクチン接種経費などが減額となったため、人口1人当たりの人件費・物件費等の決算額は3,086円の減少となった。
 類似団体に比べて高い理由として、幼保施設、清掃業務などの直営比率が高いため、人件費を含めた運営経費が類似団体より高いと考えられる。
 令和5年度現在、民間委託及び民間移管の拡大を進めており、引き続きコスト削減に取り組む。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

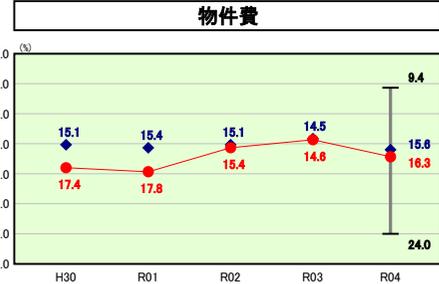
奈良県奈良市

経常収支比率の分析

人口	351,418人	(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	347,293人	(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	276.94	km ²	実質公債費比率	9.5	%
歳入総額	156,226,595	千円	将来負担比率	90.0	%
歳出総額	151,061,622	千円	市町村類型	H30 中核市 R01 中核市 R02 中核市	
実質収支	3,896,635	千円	(年度毎)	R03 中核市 R04 中核市	
標準財政規模	81,083,056	千円			
地方債現在高	189,229,838	千円			

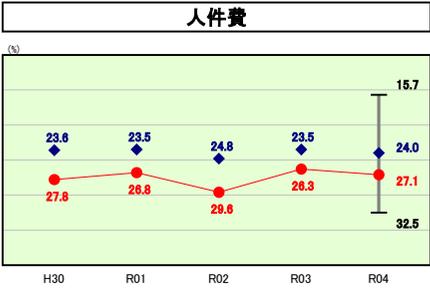


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



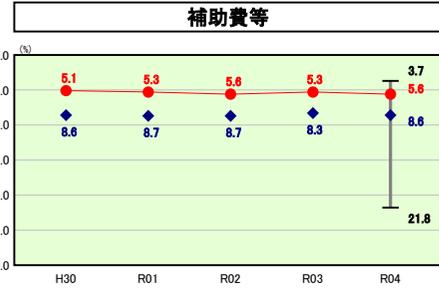
物件費の分析

令和元年度までは、幼保施設等における非正規職員の雇用が多いことなどから類似団体平均に比べ高止まりしていたが、令和2年度に会計年度任用職員制度の導入により人件費に振り替わり、令和3年度まで類似団体と同水準となっていた。
 令和4年度は各施設の光熱費高騰や主に給食食材費の物価高騰、また市民負担を軽減するべく3学期の学校給食費無償化を実施するなど、一般財源負担が増え、前年度に比べ1.7ポイント増加した。



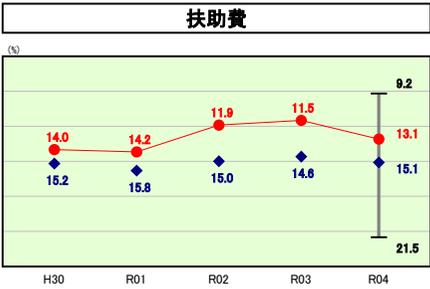
人件費の分析

定員適正化計画推進に基づく正規職員の人数減により給料が減少し、人件費全体では減少したが、分母の経常一般財源が臨時財政対策債の減により大幅に減少したため、比率としては前年度に比べ0.8ポイント増加した。
 類似団体と比較高い要因は、令和4年度から新たに児童相談所を設置したこと、また幼保施設、清掃業務などの直営比率が高く職員数が多いことが考えられる。幼保施設や清掃業務等については民間委託・民間委託の拡大、その他部門についても効率的な組織運営による職員の適正配置を進め、今後も人件費の削減に努める。



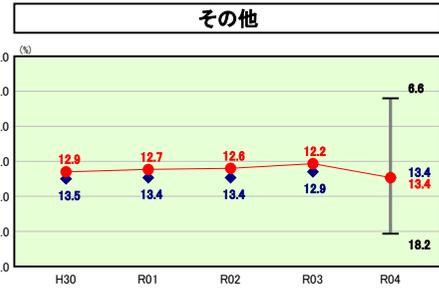
補助費等の分析

前年度に比べ、市単独で実施している私立幼保施設への補助経費の増、またコロナが収束したことで観光客誘致イベントの補助経費等が増となったことで、比率は0.3ポイント増加した。
 当市では消防業務を直営していることなどにより、類似団体よりも低い割合で推移しているが、私立保育所や認定こども園の待機児童対策等の重要な施策に対しては、補助金内容を充実させている。



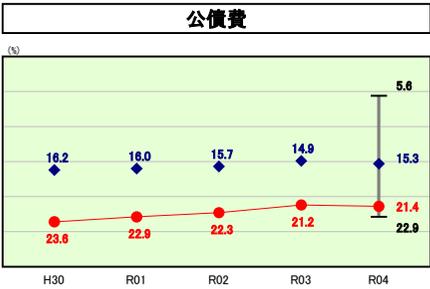
扶助費の分析

前年度に比べ、幼保施設民間移管による認定こども園施設型給付費の増、児童相談所開設による児童養護施設等措置費の増など、比率は1.6ポイント増加した。
 今後も社会保障関係費が高水準で推移することが予想されるが、扶助費の不正請求の抑制に努める等、引き続き負担増加に対応していく。



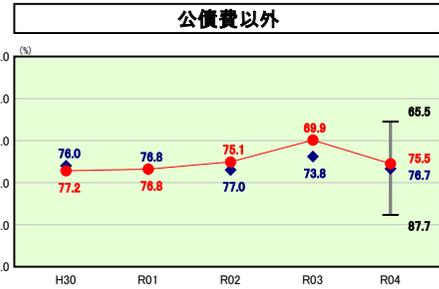
その他の分析

前年度に比べ、社会保障関係費増加に伴う後期高齢者医療費負担金が増加し、後期高齢者医療特別会計や介護保険特別会計への繰入金が増加したことで、比率は1.2ポイント増加した。
 今後も高齢化等に伴う社会保障関係費の増加等により特別会計への負担増が予想されるが、給付費の適正化、予防事業の強化等により負担額の抑制に努める。



公債費の分析

前年度に比べ、令和2年度に借り入れた譲与特例債の償還等が終了したことで元利償還額が減となり、分子の公債費充当一般財源は減少したが、分母の経常一般財源が臨時財政対策債の減により大幅に減少したため、比率としては0.2ポイント増加した。
 当市は過去の保健所等複合施設建設や文化振興施設整備等の大型投資的業務の実施による地方債残高が多く、公債費に係る経常収支比率が類似団体よりも高いまま推移している。令和4年度においても、土地開発公社解散のための第三セクター等改革推進債の影響もあり、類似団体平均を8.1ポイント上回っているため、今後も普通建設事業の精査による市債発行の適正化を図り、市債残高の抑制に努める。



公債費以外の分析

前年度に比べ、市税や地方交付税は増加したが、臨時財政対策債が大幅に減少したことにより、分母となる経常一般財源が減少した。その結果、令和4年度は類似団体平均との差が縮まった。
 人件費が類似団体平均を上回っていることから、今後も改善を進めるべく、職員数の適正化や事業の内容・手法の見直し等を推進し、財政の健全化に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

奈良県奈良市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	24,988,933	71,109	63,571	▲ 11.9
一部事務組合負担金(補助費等)	15,971	45	1,690	▲ 97.3
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	46,000	131	679	▲ 80.7
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	23	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	271,883	774	1,992	▲ 61.1
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	432,426	1,231	1,254	▲ 1.8
▲退職金	▲ 1,789,227	▲ 5,091	▲ 3,845	▲ 32.4
合計	23,965,986	68,198	65,365	4.3

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.91	6.46	0.45
ラスバイレス指数	98.8	99.4	▲ 0.6

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

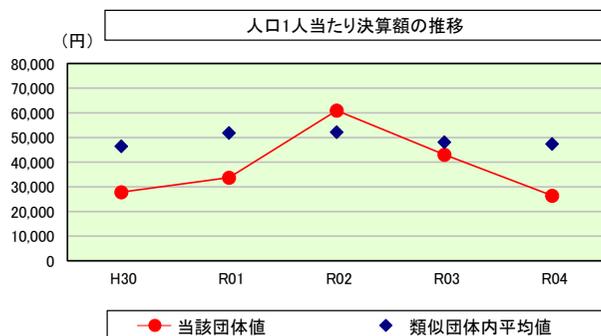


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	17,926,654	51,012	37,452	36.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	45	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,198,428	3,410	8,356	▲ 59.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	443	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	3,630	10	649	▲ 98.5
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	49	0	1	▲ 100.0
▲特定財源の額	▲ 3,093,514	▲ 8,803	▲ 7,867	11.9
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 9,183,896	▲ 26,134	▲ 28,343	▲ 7.8
合計	6,851,351	19,496	10,736	81.6

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H30	9,948,514	27,854	24.6	46,457	▲ 3.4	28.0
うち単独分	4,769,236	13,353	4.6	24,020	▲ 4.6	9.2
R01	12,000,034	33,705	21.0	51,849	11.6	9.4
うち単独分	5,184,198	14,561	9.0	26,326	9.6	▲ 0.6
R02	21,613,293	60,930	80.8	52,191	0.7	80.1
うち単独分	10,048,317	28,327	94.5	26,807	1.8	92.7
R03	15,206,459	43,059	▲ 29.3	48,105	▲ 7.8	▲ 21.5
うち単独分	9,157,777	25,931	▲ 8.5	24,072	▲ 10.2	1.7
R04	9,282,391	26,414	▲ 38.7	47,446	▲ 1.4	▲ 37.3
うち単独分	4,422,334	12,584	▲ 51.5	24,371	1.2	▲ 52.7
過去5年間平均	13,610,138	38,392	11.7	49,210	▲ 0.1	11.8
うち単独分	6,716,372	18,951	9.6	25,119	▲ 0.4	10.0

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

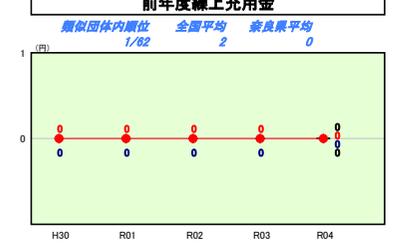
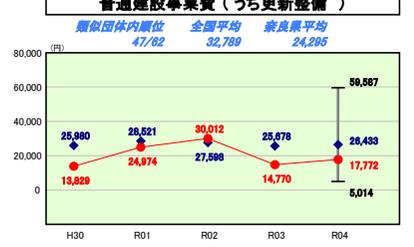
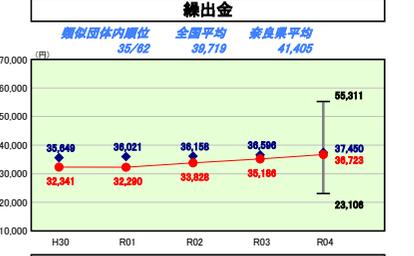
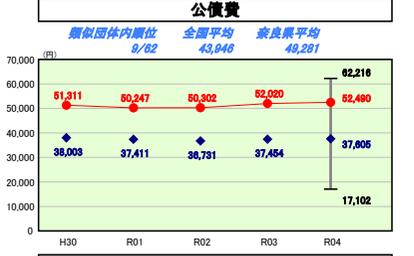
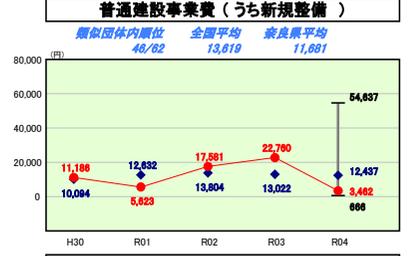
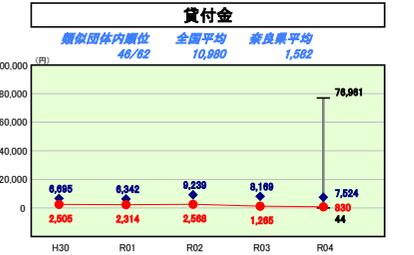
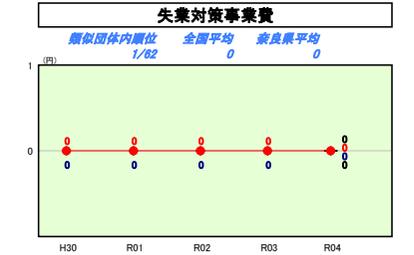
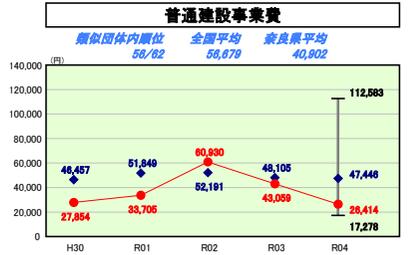
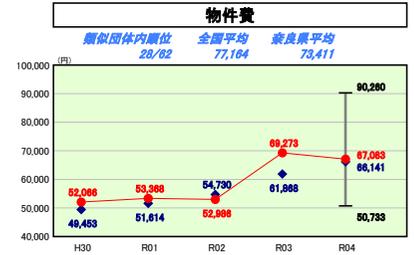
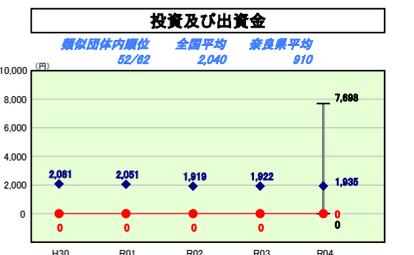
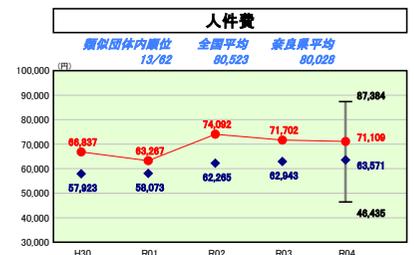
令和4年度

奈良県奈良市

人口	351,418人 (R5.1.1現在)	実赤字比率	-%
うち日本人	347,293人 (R5.1.1現在)	連結実赤字比率	-%
面積	276.94 km ²	実公債費比率	9.5%
入居総数	156,226,595千円	得金負担比率	90.0%
歳入総額	151,061,022千円	市町村類型	H30 中核市 R01 中核市 R02 中核市
歳入実収支	3,596,835千円	(年度毎)	R03 中核市 R04 中核市
標準財政規模	81,083,056千円		
地方債現在高	189,229,838千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

歳出決算総額は、住民一人当たり429,863円となっている。主な構成項目である人件費は住民一人当たり71,109円となっており、令和4年度では正規職員の人数減による給料の減少等により類似団体平均との差は縮まったものの、依然として高い水準が続いている。幼保施設、清掃業務などの直営比率が高いため、類似団体と比較して職員数が多いことが要因として挙げられる。

補助費等は、国の事業として実施した特別定額給付金事業の終了により、令和3年度で大幅に減少したが、令和4年度は地域振興基金繰越運用解消のための40億円の返還金や新型コロナウイルスワクチン接種国庫返還金等、臨時的経費増により住民一人当たり36,360円へと増加した。

物件費は、令和4年度に物価や光熱費高騰の影響もあったが、コロナ関連の飲食店への時短営業協力支援金経費やワクチン接種経費が減少したこと等により類似団体平均との差は縮まった。

普通建設事業費は、令和3年度に火葬場や児童相談所建設、ならやま小中一貫校舎建設等の大規模事業を終えたことで、住民一人当たり26,414円と大幅に減少し、引き続き類似団体平均を下回った。

公債費については類似団体と比較して、住民一人当たりのコストが高い傾向が続いている。これは、過去の保健所等複合施設建設や文化振興施設整備等の大型投資的の実施による地方債残高が多いことや、土地開発公社解散のための第三セクター等改革推進債の影響が大きいといえる。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

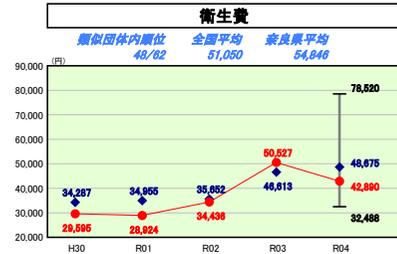
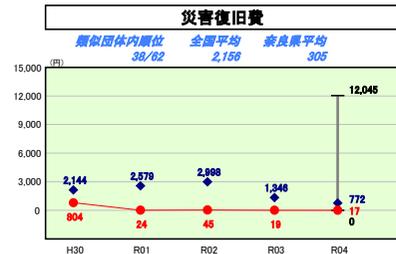
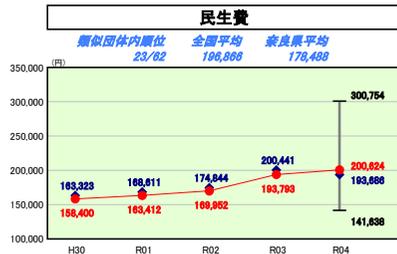
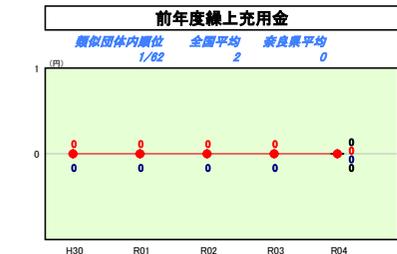
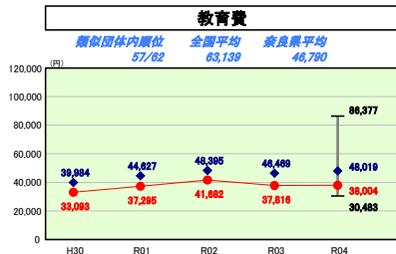
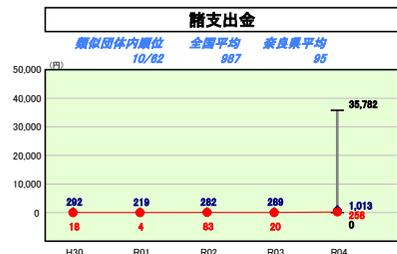
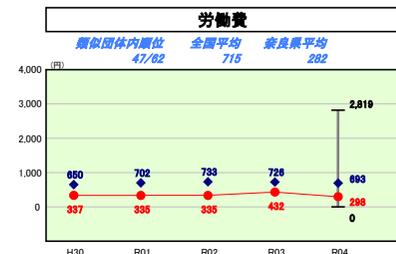
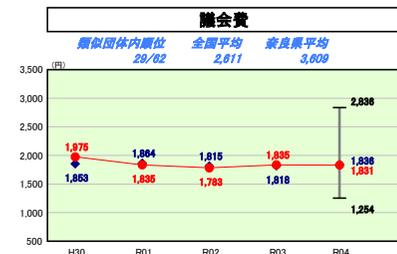
令和4年度

奈良県奈良市

人口	351,418人(05.1.1現在)	実赤字比率	-%
うち日本人	347,293人(05.1.1現在)	連結実赤字比率	-%
面積	276.94km ²	実公債費比率	9.5%
入総額	156,226,595千円	得公債比率	90.0%
出総額	151,061,022千円	市町村類型	H30 中核市 R01 中核市 R02 中核市
実収支	3,896,835千円	(年度毎)	R03 中核市 R04 中核市
標準財政規模	81,083,056千円		
地方債現在高	189,229,838千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

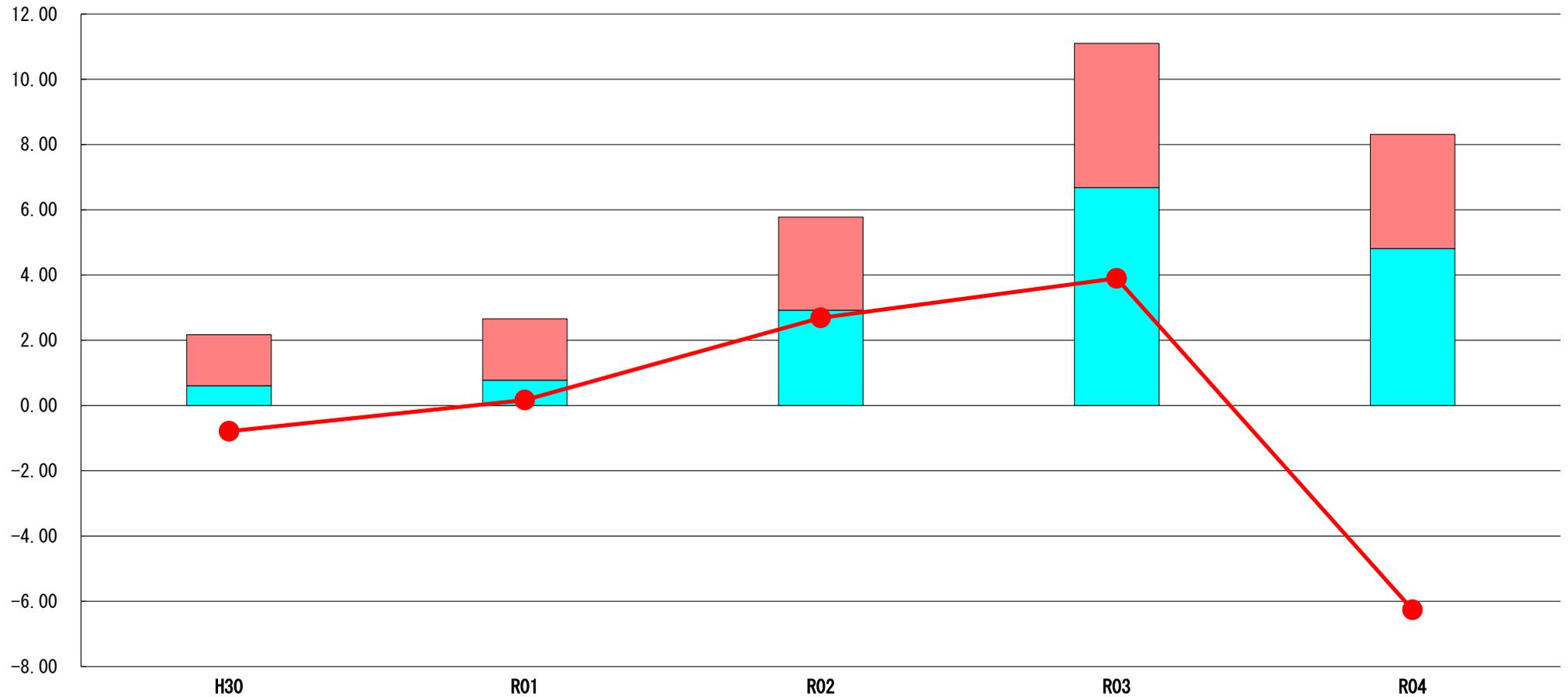
総務費は減債基金積立金減少や保健所等複合施設整備事業の減少はあるものの、地域振興基金繰越運用解消の返還金等により、令和4年度は類似団体平均を上回った。
 民生費は児童相談所建設事業が減少したものの、住民税非課税世帯等臨時特別給付金事業や子育て世帯応援商品券支給事業により、住民一人当たり200,624円に増加し類似団体平均を上回った。
 衛生費は火葬場建設事業や新型コロナウイルス感染症ワクチン接種経費の減少等により、住民一人当たり42,890円となり、類似団体平均を下回った。
 商工費はコロナ関連の飲食店への時短営業協力支援金の皆減等により、住民一人当たり5,868円となり、前年度と比べ減少した。
 公債費が住民一人当たり52,490円となっており、他の目的別コストは類似団体平均と同程度かそれ以下である中、類似団体平均に比べ高止まりしている。これは、過去の保健所等複合施設建設や文化振興施設整備等の大型投資的の実施による地方債残高が多いことや、土地開発公社解散のための第三セクター等改革推進債の影響が大きいといえる。公債費の負担は財政運営においても重い負担となっており、今後も普通建設事業の精査による市債発行の適正化を図り、市債残高の抑制に努める。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和4年度

奈良県奈良市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H30	R01	R02	R03	R04
 財政調整基金残高		1.56	1.88	2.86	4.42	3.50
 実質収支額		0.61	0.78	2.92	6.68	4.81
 実質単年度収支		▲ 0.79	0.17	2.69	3.90	▲ 6.26

分析欄

実質収支は3,897百万円の黒字となったものの、前年度の実質収支より1,603百万円減少した。実質単年度収支は、前年度比での実質収支の減少、また地域振興基金繰替運用解消のために、財政調整基金から40億円を取崩したことで、一時的ではあるが5,073百万円の赤字となった。

財政調整基金については令和3年度の歳計剰余金の積立を行ったが、40億円を取崩したことで残高が減少している。

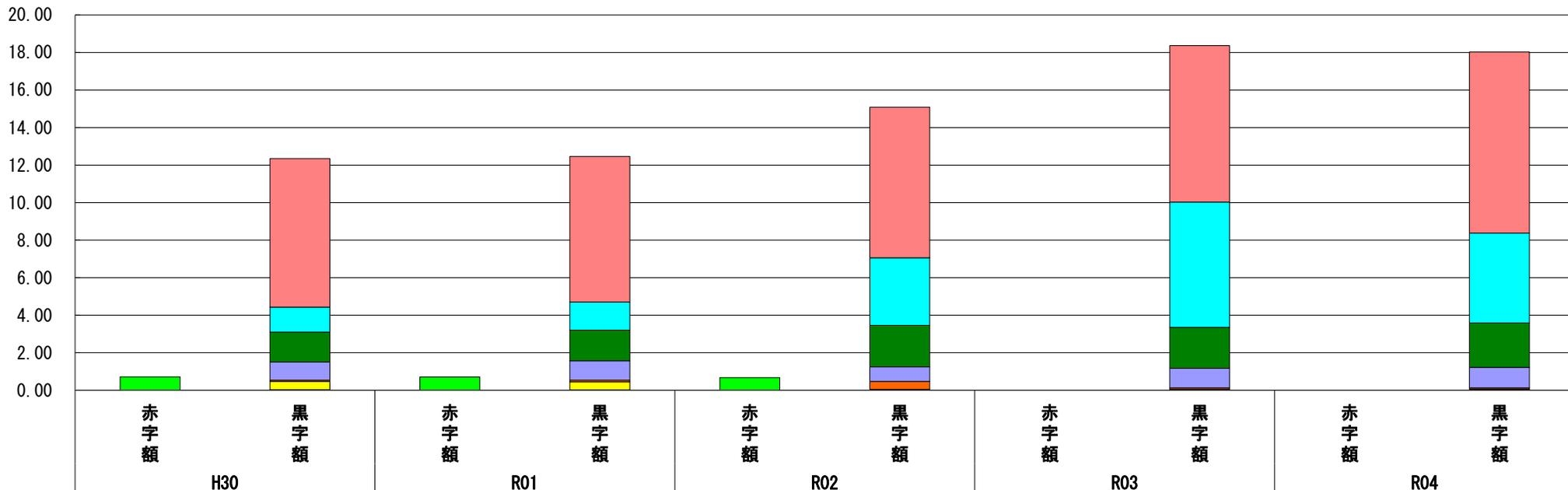
今後も、事業の精査、効率的な執行に努めるとともに、財政健全化に向けた取組を進め、類似団体に比べて低い財政調整基金残高の更なる確保に努める。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和4年度

奈良県奈良市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H30	R01	R02	R03	R04
水道事業会計		7.92	7.76	8.03	8.33	9.64
一般会計		1.33	1.49	3.60	6.68	4.79
下水道事業会計		1.59	1.64	2.21	2.18	2.37
介護保険特別会計		0.97	1.03	0.78	1.04	1.09
国民健康保険特別会計		0.07	0.09	0.42	0.07	0.06
病院事業会計		0.44	0.43	0.04	0.04	0.04
後期高齢者医療特別会計		0.03	0.02	0.01	0.02	0.02
住宅新築資金等貸付金特別会計		▲ 0.72	▲ 0.71	▲ 0.68	0.00	0.01
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

令和4年度決算における全ての会計の実質収支については、14,640百万円の黒字であった。令和3年度が15,124百万円の黒字であったことから、黒字額が484百万円減少し、連結実質黒字比率は18.05%と、前年度比で0.32ポイント悪化した。

実質黒字額が、水道事業会計で963百万円増加、下水道事業会計で130百万円増加したものの、一般会計において1,603百万円減少したことが全体の比率悪化の主な要因として挙げられる。

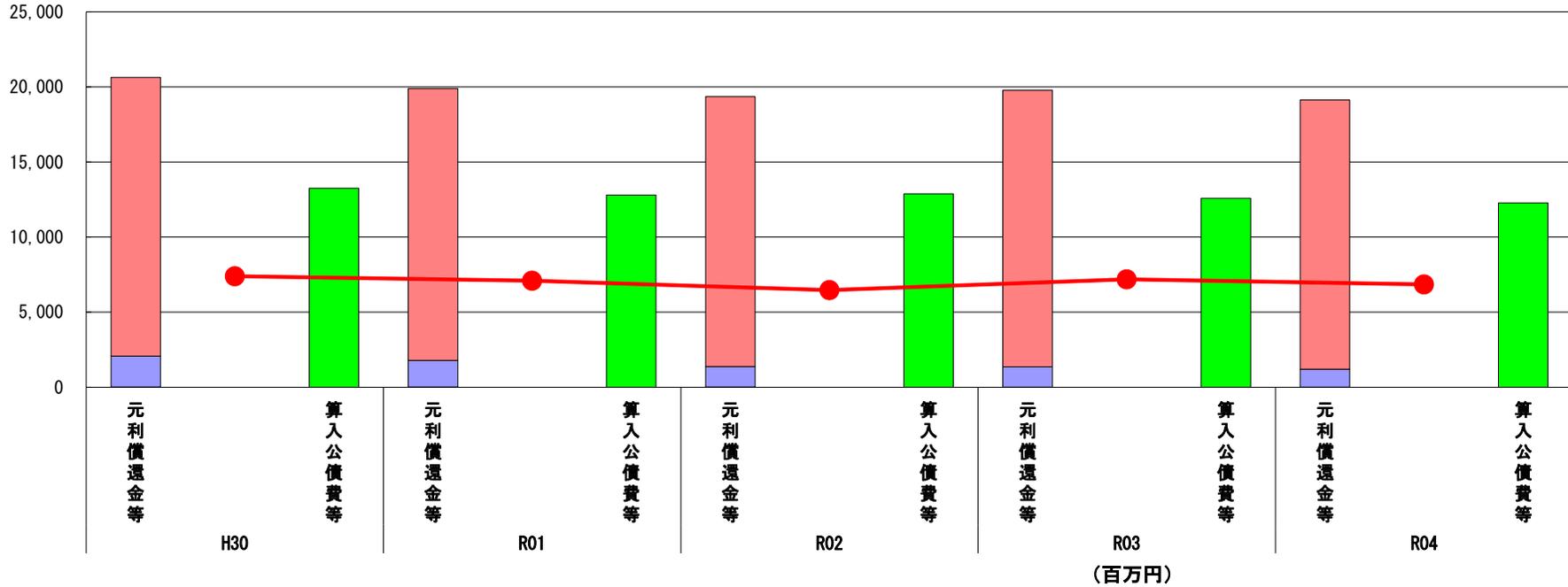
※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

奈良県奈良市

(百万円)



分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
元利償還金等(A)	元利償還金		18,566	18,105	17,972	18,419	17,927
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		2,060	1,774	1,367	1,352	1,198
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		7	4	4	4	4
	一時借入金の利子		7	8	11	-	0
算入公債費等(B)	算入公債費等		13,246	12,795	12,886	12,587	12,279
(A) - (B)	● 実質公債費比率の分子		7,394	7,096	6,468	7,188	6,850

分析欄

実質公債費比率については、単年度では9.5%と前年度比0.3ポイント改善し、3カ年平均では9.5%と前年度比0.4ポイント改善した。単年度の比率が改善した主要因として、分子となる地方債の元利償還金や公営企業債の元利償還金に対する繰入金が減額となったことが挙げられる。

※1 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※2 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

		年度	H30	R01	R02	R03	R04
減債基金積立状況等(注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額(C)						
	前年度末減債基金残高(D)						
	前年度末減債基金積立相当額(E)						

分析欄

減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還のために積み立てたものはない。

(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

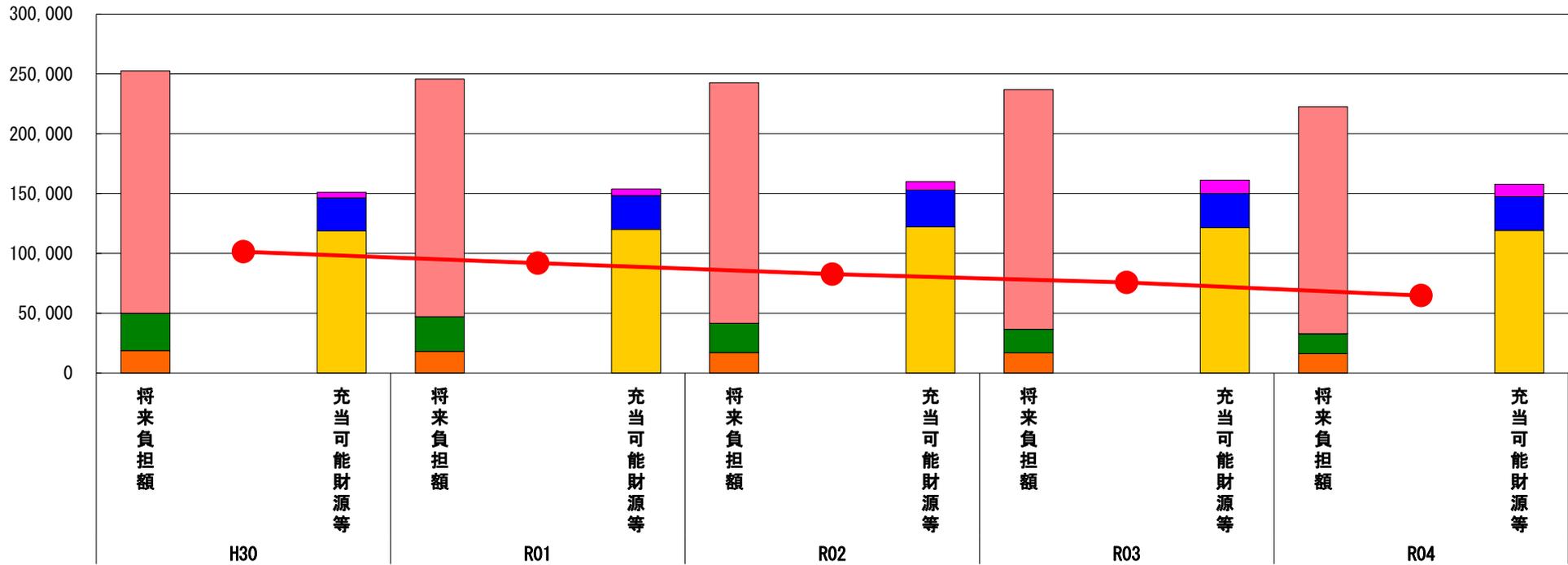
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

奈良県奈良市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		202,489	198,626	201,045	200,230	189,587
	債務負担行為に基づく支出予定額		17	14	11	8	5
	公営企業債等繰入見込額		31,342	28,990	24,477	19,728	16,738
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		18,655	18,053	17,108	16,886	16,207
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		4,790	5,466	7,115	11,118	10,396
	充当可能特定歳入		27,516	28,418	30,679	28,472	28,183
	基準財政需要額算入見込額		118,836	119,957	122,211	121,577	119,199
(A) - (B)	将来負担比率の分子		101,361	91,841	82,636	75,687	64,758

分析欄

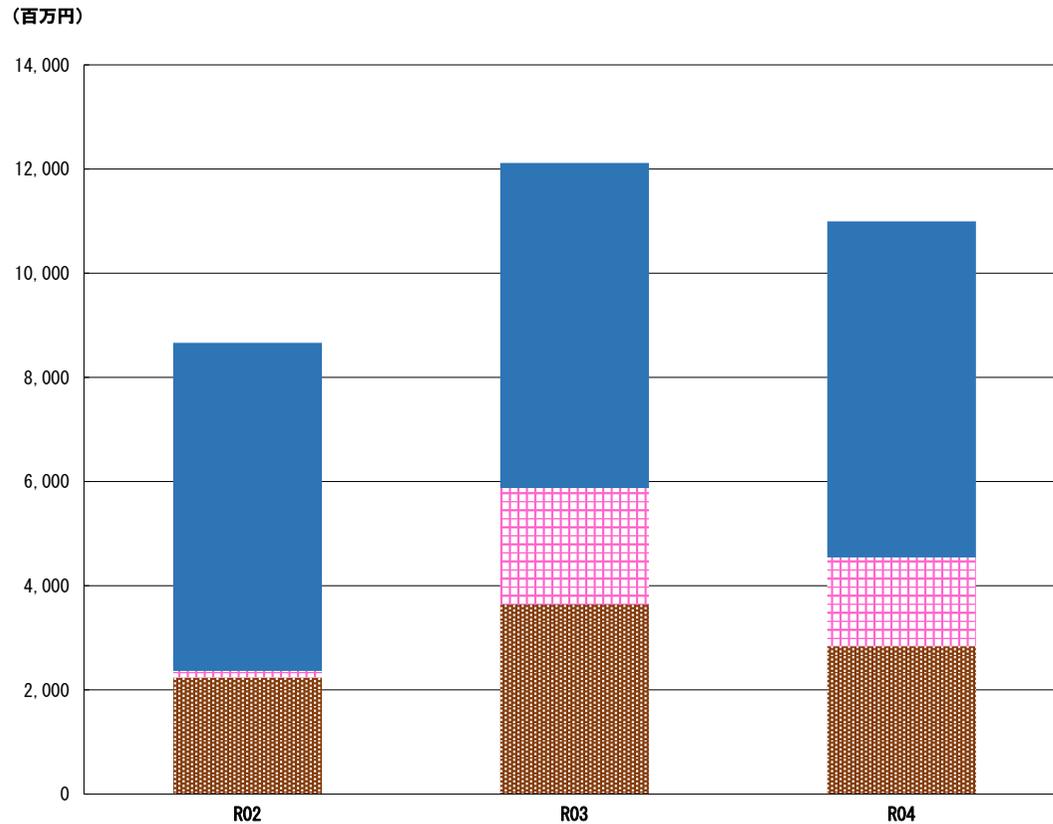
将来負担比率については、90.0%となり、前年度比13.7ポイントの改善となった。

主な要因としては、繰上償還を含む臨時財政対策債の元利償還を行い、地方債新規発行額が元金償還額を下回ったことで地方債現在高が減少したこと、退職手当負担見込額が減少したこと、公営企業債等繰入見込額が減少したことが挙げられる。

また、減債基金等の充当可能基金が減額となっている。

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	R02	R03	R04
その他特定目的基金	地域振興基金	4,000	4,000	4,000
	地元公共事業積立基金	1,827	1,815	1,873
	心のふるさと応援基金	209	231	333
	教育振興基金	72	71	84
	福祉基金	97	47	53
	基金残高合計	8,665	12,117	10,995

令和4年度 奈良県奈良市

基金全体

(増減理由)
 令和4年度末の基金残高は、普通会計で10,995百万円となっている。
 減債基金を541百万円取り崩して元金償還に充当したこと等により、基金残高は前年度と比較し1,122百万円の減少となった。

(今後の方針)
 事業の精査、効率的な執行に努めるとともに、財政健全化に向けた取り組みをさらに進め、各基金の使途や目的に十分に活用できるよう、基金の確保に努める。

財政調整基金

(増減理由)
 令和4年度末の基金残高は、2,841百万円となっており、前年度から800百万円の減少となっている。
 前年度からの歳計剰余金3,200百万円を積み立てたほか、4,000百万円の取り崩しを行なったことが要因である。

(今後の方針)
 事業の精査、効率的な執行に努めるとともに、財政健全化に向けた取組をさらに進め、災害の対応や備え等のために、類似団体に比べて残高の少ない基金の確保に努める。

減債基金

(増減理由)
 令和4年度末の基金残高は、1,703百万円となっており、前年度から531百万円の減少となっている。
 10百万円を積み立てたほか、市債の元金償還のため541百万円の取り崩しを行なったことが要因である。

(今後の方針)
 今後も元金償還に大きな負担が見込まれるため、財政調整基金とともに減債基金についても残高の確保に努める。

その他特定目的基金

(基金の使途)
 ・地域振興基金：市民の連帯強化や地域振興等に要する経費の財源とすることを使途としている。
 ・地元公共事業積立基金：財産区財産であった財産を処分することに伴い発生する金銭を当該財産区住民の福祉を増進する目的をもって行う公共事業の資金とすることを使途としている。
 ・心のふるさと応援基金：市民等からの寄附金を財源として、文化財の保存及び活用、観光の振興並びに奈良の魅力を高め、その発展に寄与する事業を使途としている。
 ・福祉基金：市民等からの寄附金を財源として、社会福祉の増進に寄与する事業を使途としている。
 ・教育振興基金：市民等からの寄附金を財源として、教育振興を目的とする事業を使途としている。

(増減理由)
 ・地元公共事業積立基金：利子収入9百万円を積み立て、また地元公共事業に32百万円取り崩して充当したことから58百万円の増加となっている。
 ・心のふるさと応援基金：市民からの寄附金314百万円を積み立て、文化財の保存及び活用事業等に211万円取り崩して充当したことから102百万円の増加となっている。
 ・教育振興基金：利子及び寄附金により28百万円を積み立て、教育振興施策等に15百万円取り崩して充当したことから13百万円の増加となっている。
 ・福祉基金：利子及び寄附金により20百万円を積み立て、社会福祉の増進に寄与する事業に14百万円取り崩して充当したことから6百万円の増加となっている。

(今後の方針)
 心のふるさと応援基金については、市民からの寄附金を幅広く活用できるよう対象事業の拡充に努め、より市民のニーズに合った事業に充当できるよう図っていく。
 その他の基金についても、特定の財政支出に備えるため一定額を確保していく。